



一般質問

節木三千代県議は一般質問で、核兵器廃絶・滋賀県地域医療構想・国民健康保険・子どもの医療費助成を取り上げ、三日月知事の姿勢を質しました。

大幅な病床削減では命は守れない!—地域医療構想 安心できる医療・介護保障を



一般質問するふしき県議

滋賀県が2016年につくった地域医療構想は、2025年に必要とされる病床は、11,319床で、2015年と比べて10年間で1,147床(9%)減らす計画になっています。ふしき県議は、レセプト(診療報酬明細書)をもとにした推計では、お金がなくて受診できないことや、医師不足で診察や入院に際限があることなど、「実際の滋賀県の医療ニーズが反映されていない」と指摘。県当局も「このような実態は反映されていない」と認めました。さらに知事に対して、「国のガイドラインどおりでは県民の命・健康は守れない」とし、意見をあげるよう求めました。

また、実際に県内の病院で、満床のため1ヶ月間に8人も入院できなかった例をあげ、開業医から「1床たりとも減らしてもらっては困る」という声も紹介。京都府では地域の実情を踏まえた「地域ケア構想」を作成しています。ふしき県議は、滋賀県も、関係者・住民の要求を踏まえた医療提供体制を構築すべきとつよく求めました。

巨額の国体施設整備を見直し、中学校卒業まで医療費無料化を

日本共産党県議団が視察した福井県では子どもの医療費助成は、県として小学校3年生まで助成しています。そして更に全市町が連携し、中学校卒業まで実施。ふしき県議は「滋賀県は就学前までと大きく立ち遅れている。同じ滋賀県に住んでいるが、市町によって子どもの命に格差が生まれている。中学校卒業まで拡充すべき」と求めました。知事は「医療費の増高、県の財政状況を勘案」と県民の願いに背を向けていましたが、ふしき県議は「中学校卒業まで医療費無料化は10億円でできる。巨額の国体施設整備(300億~500億円)こそ見直すべきだ」と主張しました。

	県の助成	市町の通院・入院助成
滋賀県	就学前	10市町で中学校卒業まで 大津市(小6まで) 他8市町(通院は就学前)
福井県	小学校3年生まで	全市町で中学校卒業まで

1人1万円引き下げを 高すぎる国保料 増える差し押さえ

来年度から国民健康保険が都道府県単位化されます。しかし滋賀県も「運営単位を都道府県に広げただけでは、低所得者が多く、高齢者の割合も高い」という構造的な問題の解決にはつながらない」としています。

ふしき県議は、高すぎて払いたくても払えない国民健康保険料に、大津市でも差し押さえ件数が年々増えていることをあげ、「社会保障としての理念を滋賀県の運営方針にかかげるべき」とし、「保険料を引き上げてはならない。県として、1人1万円引き下げよ」と強く求めました。



桜色の手帳・・・被爆者のおもいに心寄せて

国連会議のさなかの6月県議会。被爆者のみなさんの声を届けたいと、広島原爆投下直後、19歳で教員として救護に駆けつけられた埴田富子さんに話をお聞きしました。「男女の区別もつかず、ボロボロの皮膚をさげて歩く人々。丸太のような生きた人間が並べられ、うじ虫がわく。今でも夢でうなされることがあります」と。「孫たちには、2度とこういう思いをさせたくない。これは私の生きた証です。桜色の手帳です」と被爆者手帳を見せていただきました。一般質問では三日月知事に「ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器禁止廃絶国際署名」の賛同をよびかけ、「すでに署名をさませたところです」と。7月7日国連で歴史的な核兵器禁止条約が採択されました。長年にわたる被爆者の皆さんの運動が世界に広がり核兵器が違法化に。署名をさらにひろげ、この条約を力に必ず核兵器の全面廃絶を!!

みちよの
かけ歩き(記)



(ふしき)

生活相談会をおこなっています。

毎月 第1.3月曜日 午後3~5時まで
場所: ふしきみちよ事務所 無料・秘密厳

2017年7月11日 発行: ふしきみちよ事務所
大津市末広町4の4 Tel・Fax 077-523-0334
メール mfushiki@beach.ocn.ne.jp

ふしき みちよ

検索

ふしきみちよ公式ホームページ <http://fusiki.huu.cc/>